未来に思いを馳せて

中溝一仁
㈲アクセス ユープラン　代表取締役



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今年は平成が終わり、新たな元号を迎えることになりますね。時代の節目については、「人間が勝手に決めたものだから大した問題ではない。宇宙の営みは連続したもので区切りなどない」という意見もあるでしょう。「節目」に意味を見出すかどうかは、私たち自身がそれを意識していかに過去に学び、いかに未来について考えるか、にかかっているのではないでしょうか。せっかくの機会ですから、ちょっと過去を振り返り未来に思いを馳せてみたいと思います。

平成の30年間は多くの天災や経済的な困難が多くありました。一方で、ICTと呼ばれる科学技術は非常に進歩し、私たちの日常生活も大きく変化しました。当面は激しい変化が続くのではないでしょうか。また、単純作業はより機械化が進むことでしょう。ところが、人間自身の能力や思考、好みなどはそれほど劇的に変わらないかもしれません。そう考えると、近未来に必要な人や能力とは、技術開発という高度なデジタルに関わるか、それともデジタル時代にもっともアナログな存在である「人」に直接関わるか、という両極になるのではないかと私は考えます。

弊社では最新のパソコンやデジタル機器を取り扱いながら、一方でお客さまと直接お話をしてそれらを「使いやすいもの」にし、さらに「心を満たす」という「満足感」を提供できるよう心掛けております。機械が高度化すれば操作は一時的に難しくなり、それがコモディティ化するまでは多くの人にとって技術的な支援が必要になります。その支援が必要なくなる頃には、また新たに高度な技術が出てきます。私たちはそこでまた人々の「汎用化」のお手伝いしたいと考えます。今後も私たちは人の心を大切にしつつ、デジタルとアナログの融合を使命として取り組んでいきたいと思います。